

# 令和5年度(2023年度)第1回鎌倉市障害者二千人雇用推進協議会 要旨

## 1 開催日時

令和5年(2023年)7月25日(火) 午後2時から午後4時まで

## 2 開催方法

対面形式

## 3 出席委員(会長◎ 副会長○) ※資料1「鎌倉市障害者二千人雇用推進協議会委員名簿」参照

◎行實委員、○徳永委員、小紫委員、加納委員、萩原委員、小倉委員、吉田委員

## 4 会議次第

### (1) 報告事項

令和4年度障害者二千人雇用事業の実績報告について

### (2) 協議事項

前回の協議事項を踏まえた令和5年度障害者二千人雇用啓発事業等について

### (3) その他の事項

次回のスケジュールについて

## 5 配付資料

(1) 鎌倉市障害者二千人雇用推進協議会委員名簿(資料1)

(2) 令和4年度鎌倉市障害者二千人雇用事業実施結果について(資料2)

(3) 前回の協議事項を踏まえた令和5年度障害者二千人雇用啓発事業等について(資料3)

(4) 障害者二千人雇用事業周知資料(資料4)

(5) 福祉の手引(資料5)

(6) 仕事応援ガイドブック(令和2年度版)(資料6)

(7) 障害者雇用事例集フォーマット(資料7)

## 6 会議要旨

### (1) 報告事項

ア 令和4年度鎌倉市障害者二千人雇用事業実施結果について

資料2「令和4年度鎌倉市障害者二千人雇用事業実施結果について」に基づき、令和4年度に実施した障害者二千人雇用事業の実施結果について、事務局が報告を行った。

### 【委員からの主な質問等】

・事務局から報告があった障害者就職面接会については、面接会の開催からおおよそ1ヶ月以内に報告をしていることから、採用者数の数字が入っていない。10月26日に開催した面接会については、採用が14人、内訳は、知的が4人、精神が7人、身体が3人にな

る。2月17日の開催分については、採用が5人で、内訳は、知的が1人、精神が4人である。

→採用に繋がっていることが確認できた。

・農業就労体験セミナーは、2023年度も行っている事業なのか。随時募集をしているものなのか。

→令和5年度は4月から開催しており、農業体験コースの方は月に1回の開催で随時募集となっている。就労特化コースの方に関しては、全20回全てに参加していただくことが条件となっており、途中からの参加は難しい。

## (2) 協議事項

ア 前回の協議事項を踏まえた令和5年度障害者二千人雇用啓発事業等について

資料3「前回の協議事項を踏まえた令和5年度障害者二千人雇用啓発事業等について」に基づき、令和5年度に予定している障害者二千人雇用啓発事業等について、事務局が説明を行った。

### 【委員からの主な質問・意見等】

・「福祉の手引」は、手帳を取得する方にお渡ししているのか。どのような福祉サービスがあるのか、「福祉の手引」を知らなかったり、活用の仕方が分からなかったりするようである。

→障害福祉課の窓口での配付の他、ホームページでも同じ内容を掲載している。デジタル媒体での案内についても検討している。

・(事務局)情報提供の仕方について、情報過多で分かりづらくなることもある。委員が所属する事業所等において、ホームページなどで工夫されていることはあるか。

→事業の内容を知っていただくためにInstagramをはじめた。当事者の方にその情報が届いているのかについては、資料にある課題と同じように感じている。事業の内容等をしっかり伝えるために内容が硬くなりすぎているところがあるので、もう少しカジュアルに発信していくことが重要なのだと最近思うところである。

→動画作成について、業者と話をすると、見てくれる長さとしては1分から1分半ぐらいが限度であるとのこと。たくさんのを伝えようとして、長くなってしまう。作り方、作り込みというのはやはり大きなポイントになると思う。

→企業では、ホームページで求人情報を掲載する場合、アクセスした形跡を追っている。どの内容を見て、どこで離脱したのかを確認して、離脱する原因を分析している。

→ハローワークでは、昨年11月に、SNSに詳しい事務補助職員を採用し、ホームページの改訂作業を行っている。若者を惹きつけるホームページは、写真であったり、イラストであったり、また、基本的にワンクリックで自分の見たい情報に飛べるのが大切である。なるべく少ないクリック数で情報が得られるように改訂作業を行っている。

・就労継続支援事業所では、事業所ごとに情報取得の方法に差がある。通所されている方を見ていると、情報収集を本人がするのは8割もないかと思う。例えば、個別支援計画などの面では、計画相談を行う職員が情報を把握していると良いと思った。

・当事者の方だけではなくて、支援する専門職の方が、どのくらい利用していて、普段から情報にアンテナを張っているのかというところも大きなポイントになると思う。LINEなど、誰が見ているのかは、市役所では分かるのか。

→鎌倉市の公式 LINE に登録された方に対して情報を配信している。興味関心のあるテーマを LINE の中で選ぶことができるが、そこで福祉を選択いただいた方に、障害者二千人雇用事業の情報が流れるようになっている。

・就労実習を受けている企業が少ない。企業実習が進まない、情報提供が難しいなど様々な課題があると認識しているが、どのような課題があるのかをもう少し具体的に教えていただきたい。

→二千人雇用センターでは、日々、企業とやり取りを行っているが、採用を前提としない実習だけを受けてくださる企業は、ほとんどないという認識である。そういった企業の情報がほとんど入ってこないという課題がある。

→弊社では、実習受け入れにあたって、様々な議論があった。実際に30人くらいの高校生を実習で受け入れても、入社したのは7名くらいであった。採用前提ではなく、CSRとして、企業の社会的責任としての位置付けを行っている。実習計画や、実習に踏み切れない企業があれば、弊社のノウハウを展開することは可能であるため、活用していただければと思う。また、実習の受け入れをすると助成金が出ている自治体もある。少しでも良いので、行政からの補助があったらありがたいと思う。

・デジタル就労支援センターKAMAKURA の在宅就労支援で1名が一般就労されたということだが、具体的にどのようなお仕事に就かれたのか。

→市では、具体的な就職先までは把握していない。

・資料では、「デジタル就労支援センターKAMAKURA においては、在宅就労時に使用する PC の貸出台数を増やし、利用者の状況に応じてハード面での支援を行う」とあるが、在宅の方向けに PC を用意されているのか。

→デジタル支援センターでは、貸出用の PC を用意している。ご自宅での通信機器などが不十分な方については、デジタル就労支援センターでのワークスペースがある。各自で選択していただき、業務に従事していただいている。

・ワークステーションは3年で任期が終わる。その後、一般就労につながっていくのか。

→一つの課題であると認識している。これまで、例えば自治体の会計年度任用職員として就労した方、最近では一般企業への内定を受けた方もいる。ただし、ワークステーションで3

年間勤務したすべての方が希望の進路に進むことができていない部分もあり、課題として認識している。

・神奈川県でも採用にあたり任期がある。就職しても3、4年で終わってしまうと、その先がやはり一番心配だと思う。任期終了後が大丈夫であれば、希望しやすくなるのではないかな。→3年という有期の任期が終わった後、できれば一般就労を目指してはいるものの、就労移行の事業所ではなく、あくまでも市役所の中で、仕事をする場である。会計年度任用職員という職制もあるので、どうしても有期にならざるを得ないところがある。また、就労移行支援事業所のようなノウハウや体制もないため、ワークステーションのあり方は、今後検討しなければならないと感じている。

・弊社でも障害のある社員を300人ぐらい雇用している。昨今のAIの進化とともに、仕事が少なくなっていると感じている。データ入力作業や、会議の議事録を音声で聞いて打ち込む仕事があったが、自動音声ツールで議事録ができてしまうので、この仕事がなくなっている。

・他の自治体では、企業と障害者の業務のマッチングを行っているところがある。例えば、ある会社で部品の検品やパソコンを廃棄する仕事、企業が障害者や特例子会社、就労支援A型、B型に業務を委託するが、そのマッチングを自治体が行っているところがある。そのような機能が鎌倉市にあれば本当にありがたいと思う。

・体験実習の案内が、神奈川県からだと思うが、過去にあった。雇用前提ではない実習であるため、企業側も、経験がないところであれば、障害者雇用がどのようなものなのかを知る機会となる。そのような場を設けることも良いのではないかなと思う。

・雇用啓発講演会は、採用にすぐに結びつく試みとは思っていない。法定雇用が課せられていながら、採用できていない事業所がわかっているのであれば、そこに電話などで参加を依頼するなど、きっかけ作りの取組がまず必要かなと思う。

#### 【協議内容のまとめ】

・周知の問題については、広報やホームページなど、どこからその情報にたどり着いたのかをカウントしながら、見やすさを検証していく必要がある。

・採用前段階の企業への支援については、体験実習というところで、雇用する・しないの前に、企業も障害者をどのように雇用していいのかもわからないため、まず経験してもらうということも必要である。そして、企業側の体験、普及啓発、CSRといった部分だけでなく、何か企業側に少しでもメリットがあると、手を挙げやすくなるのではないかなと思う。

・ワークステーションかまぐらの支援については、任期付というところの難しさは、どうしてもあると思う。市役所イコール福祉的な部分の役割というイメージがどうしても

あるので、市役所が一企業として単にやっているだけの事業でも、期待度としては、福祉的な支援までやってくれるのではないかとこのころで、マッチングの問題も出てくると思う。きちんと次の福祉施設との連携をとっていく姿勢、形をとっていただくことも良いのではないかと感じた。

・BP0 事業については、IT 関係のテレワークや、本人たちにどれだけの IT 能力があるのかという部分と、AI がどんどん進んできているので、障害者ができる仕事の創出、そのマッチングの難しさが出てきているのではないかとこのころで、マッチングの問題も出てくると思う。テープ起こしを事業所に依頼していたものが、AI を使用して自分でできるようになるため、そちらの方が早くて良いというようになりつつある。しかし、正確性の面では依頼した方が良いというところもある。どのように組み合わせを考えていくのかというマッチングのシンクタンクのようなものが、この鎌倉でもできてくれば良いと思う。企業側のこのようなことをして欲しいとか、小さな仕事でも切り出して、この部分のこのようなところをして欲しいという希望と、少しだけでも働きたいという希望、この仕事とのマッチングのようなものが、障害者にもできていいのかと皆さんの話を聞いて感じた。

### (3) その他の事項

#### ア 次年度のスケジュールについて

次回、第2回の開催は令和6年1月頃を予定していることについて、事務局が説明を行い、委員の承諾を得た。